

ふたりのコラム

March 16, 2022

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイプルキッズ 施設長 新井利枝

《3・4・5歳児》

ご卒園おめでとうございます！



本日、卒園式が挙行されました。無事に、本日を迎えることができたことに感謝申し上げます。もり組の子どもたちは、あかみ幼稚園での生活の中で、自己を発揮し、お互い意見を出し合っ、自分も大切・相手も大切にしながら、話し合いで物事を決めようとする姿勢が育まれてきました。例えば、キッズフェスティバルに向けての活動の中で、協力したり、相談したりして、みんなで一つの劇を作り上げる、という目的をもって子どもたちは活動してきました（保育者としての5歳児キッズフェスティバルのねらいは合意の形成）。また、そこでは、少し先の見通しを立てながら実行することも学びました。

しかし、このような力は5歳児になって急に育つものではありません。

3歳児クラスで、みんなと一緒に楽しいと感じられるような経験をたくさん積み、自他の違いにも気づくという経験をします。4歳児ではその経験をもとに、友だちと関係性を築きながら、時には思いをぶつけあってけんかをすることもあります。そのことで、嫌な思いをしたり、仲直りをしたときのうれしさを感じたり、自分の感情にも気づいていきます。そして次第に、気持ちをコントロールできるようにもなってきます。



また、この広い園庭で、アスレチックに上ったり、思い切り走ったりして、体も丈夫になります。保育室では、たくさんものを作ったりすることで、手先も発達していきます。

このような3・4歳児の経験の積み重ねが、5歳児に花開いていくのです。5歳児になると、いろいろな可能性も広がり、調べたり、協力したり、思ったことを形にしたりすることができるようになっていきます。

これは、与えられたことを行う受動的な活動からではなく、保育者が子どもたちの興味関心を引き出し、個々の子どもたちの持っているよいところを引き出しながら、子どもたちが主体的な遊び（＝学び）をすることから培われていきます。



3・4歳児の修了式はこれからですが、今年度1年間でそれぞれの学年で大きく成長したことが、次の学年につながり、それが、最終学年のもり組で、成就していくのです。3・4歳児の保護者のみなさんと、これからも、子どもたちの成長をともに喜び合いたいと思います。

また、卒園された皆様におきましては、小学校の先生と良い関係を築き、これからも子どもを中心に置きながら成長を見守っていただけたらと思います。それでも何かお困りの際、または、うれしいご報告など、ぜひ園にいらしてください。



ICT化を進め・・・

れんらくアプリを導入して、便利になりつつあります。

もっと便利に使えたらよいのに、とお感じの方もいらっしゃるかもしれませんね。一方、使いにくいとか、会って話ができる場面が減ってしまっって残念とお感じの方もいらっしゃるかもしれません。

今後、検討を重ね、より利用しやすい連絡アプリを目指していきます。

また、この「二人のコラム」を初め「保育のお知らせ」や「クラス便り」につきましてもよりわかりやすく、読みやすいものに徐々に変えていけるようにしていきたいと思います。何かありましたら、ご意見をお待ちしております。

もり組かっぱと会えた・・・!?

「畑のきゅうりをかっぱが食べた…」など、あかみ幼稚園にはかっぱ伝説あがります。

そのかっぱに会うために、色々と調べたり、修業を重ねたりして、パワーをためてきました。

今年のもり組も、仲間と力を合わせ、かっぱに会えるかもしれないと気持ちを一つにして修業を

してきました。なかなかかっぱに会うことができなかった子どもたちに、かっぱの謎が分かる

かもしれない紙芝居は、「川が汚くなってしまい、人の目も曇り、かっぱを見ることができなく

なり・・・あかみ幼稚園の園庭に「生き石」となって眠っている…」という話でした。そのことを知り、すぐに園庭に駆け付け、石に耳を当てて声を聞こうとしたり、話しかけたりしていました。心揺さぶられる経験の中にも、環境に気を向けるような話です。キッズフェスティバルの劇でも環境に気を付けようというテーマがどこのクラスでもありました。5歳児の子どもたちでも、現実をしっかり見つめ理解できる部分と、虚構に心揺さぶられる部分が混在しますが、幼児期にこのようなことに関心を持ち、考えることは、大切な経験の一つだと思います。皆様も、園にいらした際は、さりげなくご覧になってみてください。

(文責：中田)



《0・1・2歳児》

今日は、卒園式でした。もり組の保護者の皆さん、あらためまして、**ご卒園おめでとうございます。**

舞台上で堂々と卒園証書を受け取る姿に、保護者の皆様も子ども達の成長をうれしく感じたことと思います。

今のもり組の子たちが、0歳つくし組で入園してきた年に、メイプルキッズでは担当制保育を取り入れ、より家庭的な雰囲気大切に、保育者との愛着形成を築いてきました。メイプルキッズの職員一同も本日の子ども達の凛々しい姿を目にし、喜びもひとしおです。

この2年、コロナウイルスの影響もあり、思うように行事等できないことも多々ありましたね。それでも、その中でできることの最善を尽くし、保護者の皆様のご協力のもと今日を迎えられたと思っています。先日のキッズフェスティバルでも、もり組の子ども達一人ひとりが力を発揮し、素敵な劇が出来上がっていましたね。これまでの経験を糧に、今後も、もり組の子ども達がさらなる成長を遂げることを祈っています。



メイプルキッズの時の写真です。 みんな大きくなったね！！

現代は、様々な環境が目覚ましく変化、複雑化して、先の見通せない不安な状況、所謂VUCAな時代でもありますね。また、コロナウイルスの大流行という想定外のことも起こり、多くの企業でダメージを受けています。こうした状況の中で不安を持つ方も多くいらっしゃると思います。実は、私もその一人でもあります。こう見えて、意外とすぐマイナスな思考になってしまうこともあります。

最近では、自分の老いを認められず、今まで出来たことができなくなってしまうこと（物忘れがひどい）に恐怖を感じることも多いです。そして、そんな自分にまた不安になったり……。そして、なんととっても最近の不安は、「息子が一人暮らしで家を出ていくこと」でした。考えると、寂しさから切なくなってしまう、夜もなんとなく寝付けず……。そんな日々が続いていました。こんな事じゃダメだなと思いつつ、モヤモヤする毎日。ある日仕事での休憩中、ふとそんな話題になったとき、ある職員から、「私も色々想像しては、こうだったらとシミュレーションをして、納得するようにして切り替えてますよ」と聞き、すごいなあー私もそんな風にできないかなと感心していました。それから少ししたころ、息子が家にいる時にふと「早く家から出て、自立したい、一人でも大丈夫だから」と言ってきたのです。その言葉を聞き、「息子の自立を私が応援しないで、誰が応援するのよ！」と妙に納得している自分がいました。今までは、ちょっと頼りない息子をいつも気にかけてすぎて心配ばかりでしたが、息子が大学生活を楽しんでいる姿を想像したら今までのモヤモヤが嘘のように晴れていくのがわかりました。それからは、不思議と前向きに切り替えられ、自分自身で「私、やればできるじゃん！！」とちょっと自信が持てるようになりました。これって、自己肯定感が高まったってこと？と勝手に自分の中で変換しています。

自己肯定感とは、チャレンジから成功の積み重ねによって育まれていくものです。今回私は、苦手だった気持ちの切り替えにチャレンジし成功（勝手に感じてる）できました。弱い部分を含めた自分自身を認めたことも良かったのだと思いますが、この先も何とかなるんじゃないかと思えるとともに、この先自分にはもっとできること（仕事もプライベートも）もあるんじゃないかと考えています。

最後の最後に、長々と私自身の話になってしまいましたが、子ども達、そして保護者の方にもこれからの未来を、「自分の可能性を信じ、自分の弱みを認め克服するために、今できることにチャレンジをし次への期待を高める」この積み重ねを繰り返し、自分の未来を描けるようになってほしいと思います。私も皆さんに負けないう、これからも「私、やればできるじゃん！！」の気持ちを大事にしていきたいと思います。そして、もり組の皆さん、たまには、元気な顔を見せに遊びに来てくださいね。待っています。

「コラム、楽しみにしてます」とお声掛けいただくこともあり、それが私の励みにもなりました。
1年間、拙い文章におつきあいいただき、ありがとうございました。

（文責：新井）